

「燃料電池発電プラント」周辺機器の試運転を開始

知多燃料電池発電試験所

1,000kW燃料電池発電試験設備は、知多第二火力発電所構内に昨年4月から建設していたが、12月に電池本体を除く改質器等主要機器の据付を完了した。

本年1月から周辺機器の試運転を開始し、現在、順調に試運転を行っている。

今後、空気系、燃料改質系等順次各系統ごとに調整試験を行い、電池本体を据付けた後、総合調整試験を実施し、9月から運転研究を開始する予定である。

なお、同プラントは、国産技術では最大容量のものであり、その技術開発が産業界等から注目をあびている。

改質器：天然ガスを分解して、燃料電池へ供給する水素ガスを得る装置



3月から調整試験予定の改質器

燃料電池発電プラントの仕様

電気出力	1,000kW (250kW×4基)
発電効率	42% (目標値)
電池作動温度	205℃
電池作動圧力	6kg/cm ² G
使用燃料	天然ガス

建設中の500kV伊勢幹線で 大束径6導体送電線の線路定数を測定実施

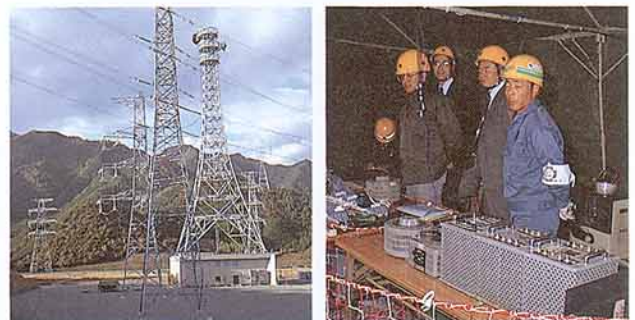
総合技術研究所 電気第一研究室

60年11月12日から22日にかけて、建設中の伊勢幹線（亘長94km）の線路定数を実測した。

この送電線は、当社初の TACSR410mm²×6導体を採用しており、系統安定度上、送電容量増大を図るため、素導体間隔を従来より広げ、低インダクタンス化を目指した設計とした。

この導体方式は、世界的にも例がなく、設計値と比較するため、一部完成した送電線を利用して現地で測定を行った。

測定は、伊勢開閉所構内からNo.88鉄塔までの亘長約40kmを対象に、直流抵抗、静電容量、インダクタンス、サージインピーダンス、進行波の減衰、伝播速度などについて行い、設計値とほぼ一致したデータを得た。



鉄塔下部のテント小屋で測定

